

五臟論歌

- 一、肝は木ぞ東也、春に筋は酢  
青くきう(宮)にて、四めなりけり
- 二、心は火ぞ南也、夏に血はにがし  
赤くしやう(商)にて、こころ(心)さきなり
- 一、脾は土ぞ中也、土用に肉あまし  
黄なれば、かく(角)に六めなりけり
- 一、肺は金、西、秋、息はからく(辛)して  
白くう(羽)なれば、八めなりけり
- 一、腎は水、北、冬、骨はしは(わ)はゆ(鹹)く  
黒くち(徴)されば、ほねのはしめぞ
- 五生、五仏之歌
- 一、木はやくし(薬師)、火は観音にち(土)ふどう(不動)  
金はあみだ(阿弥陀)水はしやか(釈迦)にて
- 魂有所
- 一、子は眼うし(丑)耳、とら(寅)尾、卯は鼻に  
たつ(辰)腰なれば、み(巳)は足にあり
- 一、午心、ひつじ(未)は足にさる(申)かしら  
とり(酉)眼に、いぬ(戌)は、かしら、い(亥)は耳
- 血いみの事 定業日間違と見えたり
- 一、正はとら(寅)二はみ(巳)ぞ、三はひつじ(未)にて  
四はうし(丑)五さる(申)六はいぬ(戌)なり
- 一、七はね(子)ぞ八卯、九午に十ひつじ(未)  
十一はとら(寅)に、十二とり(酉)むま(午)
- 定業日
- 一、正は午、二ひつじ(未)三はとら(寅)なれば  
四はさる(申)五卯に六はとり(酉)なり
- 一、七はたつ(辰)八いぬ(戌)九はみ(巳)十はい(亥)ぞ  
十一は午ぞ、十二ね(子)なれば一緒々の事  
物に有といへどもおぼえがたきに  
よりかやうにしるし候書物也

桑嶋新右衛門尉 仲綱

鈴木主膳介

道重

水沢清五郎

文禄四乙未 二月五日 実秀

青柳与六郎殿

進覧